

箸蔵小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の工夫・改善
- 家庭との連携による生活・家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

野町 孝英

【各校の取組状況の把握について】

各学期ごとに学力向上検討委員会を設け、成果と課題について検討する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中は与えられた課題に真面目に取り組むことができる。ドリル学習に意欲的に取り組み、全体的に基礎的な学力が定着してきた。 ●読解力の基礎となる漢字・語彙力や構文力の定着が十分でない児童が見られる。	・学習規律や学習スキル(聴く・話す)をしっかりと身に付ける。 ・漢字や計算を中心とした基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができる。	・朝の活動や家庭学習を中心に、漢字や計算、文の構成(主語・述語・修飾語等)の問題に継続的に取り組ませる。 ・「めざせ!ききトリ名人」の取組みを継続し、傾聴力と記憶力を鍛える。 ・「すらすら作文シート」を使って、自分や友達の作文を推敲する時間を確保する。	・同音異義語など漢字のもつ意味を考えながら、実際に文や文章の中で正しく使うことができるよう指導する。 ・「めざせ!ききトリ名人」の取組みにゲーム的な要素を加え、楽しみながら「聴く力」を伸ばす。	・ドリル学習により全体的に基礎的な学力が定着してきたが、学年によって二極化や個人差が見られた。 ・学習スキル(聴く)の獲得が不十分だった。 ・タブレットのアプリを使って、個に応じたドリル学習をしたり作文の推敲をしたりした。	・さらに基礎学力の定着を図るため、朝の活動や放課後の補充学習等の校内支援体制を工夫する。 ・「聴く力」を向上させるため、指導の工夫改善を図る。 ・「すらすら作文シート」やタブレットを活用し、さらに「書く力」の基本を定着させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○日記やテーマ作文に継続的に取り組み、書く力がついてきた。 ●発表の声が小さく、自分の考えに自信がもてない児童がいる。 ●複数の資料やデータ等から必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめることに課題がある。	・場面にあう声の大きさではきはきと分かりやすく話すことができる。 ・根拠を明確にして自分の意見を伝えたり、図や式、言葉を使って説明したりすることができる。 ・複数の資料やデータ等から必要な情報を取り出したり引用したりして、自分の考えを書くことができる。	・ペアやグループによる話し合い活動を設定し、自分の考えを明確にしたり発表に自信をもたせたりする。 ・文章や図、グラフなどの大事な部分に線を引いたり丸で囲んだりすることを習慣づける。 ・CD版「学習ガイド」を利用し「読むこと」「書くこと」の活用問題に取り組ませる。	・引き続き「聴く」「考える」「伝える」の場面に重点をおいた授業づくりに努める。 ・なぜそう考えたのか、根拠や理由をつけて話したり書いたりすることを習慣づける。	・ペアやグループによる話し合いの場を確保したことで、自分の意見をしっかりと発表できる児童が増えてきた。 ・行事や授業中の発表の場面における声の大きさや話し方は良くなってきたが、日常生活の中で活かしてきていない。 ・「学習ガイド」を印刷したものをチャレンジプリントとして個人に配布し取り組んだ。	・算数だけでなく国語の長文読解の際にも大事な部分に線を引いたり丸で囲んだりすることを習慣づけ、読解力の向上を図る。 ・引き続きCD版「学習ガイド」を利用し「読むこと」「書くこと」の活用問題に取り組ませる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○選書方法の工夫や地域ボランティアによる読み聞かせを通して、高学年の読書意欲が高まった。 ●出された宿題はきちんとできるが、自主学習に取り組もうとする児童は少なく、高学年では家庭学習の時間が確保できていない。	・「学年×10分」の家庭学習に取り組む習慣を身につけ、主体的に学習に取り組むことができる。 ・朝の読書や家庭読書に意欲的に取り組み、幅広い読み物(新聞を含む)を進んで読むことができる。	・自主学習のやり方や内容を示した「自学のすすめ」を作成し、自分で課題を見つけ、進んで自主学習に取り組めるようにする。 ・図書の紹介カードを書くなど、読書の感想を共有する機会を設け、読書活動の推進を図る。	・個々の自主学習への取組み状況を確認し、適切な助言を行いながら、さらに意欲を高める。 ・「読書オンリデー」に読んだ本をペアやグループで紹介し合う「お話し紹介タイム」を設定し、読書の楽しさを友達と共有する機会を増やす。	・学年が進むほど家庭学習時間の確保が難しかった。 ・自主学習の内容や数値目標を具体的に示したことで、進んで自主学習に取り組む児童が増えてきた。 ・読書の目標冊数達成率が伸びなかった。読書意欲を高める工夫が必要である。	・自主学習の意欲がさらに高まるようシールや賞状等のごほうびを設定する。 ・全校で新聞を読む時間を確保する。要約や感想を書く活動にもつなげていく。 ・読書カードへの記録の仕方を工夫したり読書の感想を共有する機会をさらに増やしたりする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

